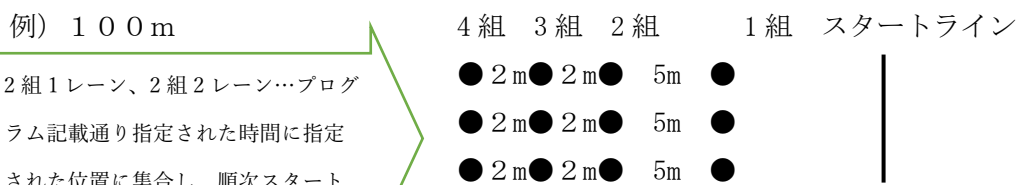


【1】 大会を実施するにあたっての感染症対策

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 競技者、関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。

【2】 具体的な対策

- ① 大会への移動方法
 - ・交通手段については感染リスクの少ない方法での現地集合をお願いする。
- ② 各場所の集合形態
 - ・「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」「手指消毒、手洗い」の徹底。
- ③ 招集の方法について
 - ・選手の密集を避けるため、招集所を開設せず、現地集合のみとする。場所と時間についてはプログラムの指示に従うこと（100m＝スタート地点付近、フィールド種目＝各ピット）。暑さ対策のためテントを用意することもある。



- ・競技者係は出発係と連携し、選手のDNS等を逐一連絡する。
- ・フィールド種目の待機場所では1.5m間隔で指定場所を作成する。

- ④ 服装について
 - ・審判員は、マスクは全員が着用、ビニール手袋・軍手も推奨する。
 - ・選手はマスク着用（競技時は外してよいが、待機中は着用する）。
- ⑤ 各団体の対策
 - ・各団体でテントやシートでベンチを作る場合は、平素よりもスペースを広めに取ることに、ベンチ内で密集しないよう徹底する。また、そのことを係員が巡回指導を行って徹底する。
 - ・大会中、仲間との握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各団体に指導を行う。
 - ・当日出たゴミについては各団体で責任を持って持ち帰る。

⑥ 腰ナンバーカードについて

今年度は、コロナ対応のため年間通してレーンナンバーカードは使用せず、登録番号（ナンバーカード）を使用した腰ナンバーカードとしていたが、県記録会・小瀬カーニバルの反省をもとに、全てのトラック競技において、レーンナンバーカードを使用することとする。競技者係において、ナンバーカードと4本の安全ピンを配布するので、レーンナンバーの記された腰ナンバーカードを付け、トラック競技に出場する。競技終了後には、ゴール地点においてレーン毎のボックスに返却すること。一つの大会中の使い回しはしないこととする。

⑦ 観客席対策

・大会開催時の地域の感染レベルに合わせて、有観客・無観客の決定をする。

○有観客の開催

※**収容率50%を超える行事を開催するための前提**を条件とする。

- ① マスクの常時着用の担保…マスク着用の徹底、100%が絶対条件
- ② 大声厳禁
…大声を出す物がいた場合は、個別指導等に対応
隣の席との日常会話程度は可、演者との距離は最前列との距離は2m以上
- ③ 健康チェック表（山梨陸協HPよりダウンロード）の提出し認め印（TICへ）を受ける。入場後一旦退場するような場合は、チェック表を提示する。最終退場時にTICへ提出。
- ④ 検温の実施（TICにて）37.5℃以上の場合入場不可。
観客席利用履歴用紙（TICで受領）に観戦履歴を記入し、最終退場時にTICへ提出

基本的な感染防止等

- ① 手指消毒（入室・入場時の消毒・手洗い）
- ② 会場（役員室等の室内）の消毒・換気
…30分に一回の換気と換気扇の常時稼働
- ③ 密集の回避
…入退場時の密集の回避（時間差入退場 例：Aゲート…Bゲート…順に）
入退場時、人と人が触れない距離を保つこと
- ④ 身体的距離の確保（人と人の間1～2m以上）
- ⑤ 入場時の検温（登校時の検温で可）発熱症状（37.5℃以上）は自宅待機
- ⑥ 行事前後の感染防止の注意喚起（巡回の実施）

参考：「年度末に向けて行われる行事等の留意事項等について」

2021.2.15 文部科学省通知

○無観客の場合

- ・無観客とする。ただし、観客席は開放するが、観客席に入場できるのは、大会関係者・選手・※選手関係者（監督・コーチ・親族等）・報道関係者等に限り入場を認める。IDカードで管理する。IDカードは、JAAF健康チェック表（陸協HP掲載）を提出した個人または団体に配布する。
- ・大声を出しての応援は禁止とする。
- ・係員が巡回し、観戦者が密集することがないように徹底する。

⑧ 補助競技場・更衣室の使用について

- ・補助競技場はIDカードを持った選手・指導者のみ入場可とし、付き添い生徒等も入場できない。また、集団でのウォーミングアップや練習等は禁止とし、個別に距離を保って活動を行う。
- ・更衣室には係員をつけ、最大15名定員で更衣が終了次第すぐに退出を促す。

⑨ 消毒対策

- ・各団体で消毒液を持参し、選手が競技場へ来た際と帰る際、また、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
- ・玄関・各ゲート等の出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、選手・競技

役員・関係者の消毒を促す。競技前後の導線を示し密を回避する。

- ・共用の器具に触れる種目では競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒するという方法を取る。競技後手洗い等でのタオルの使い廻しは厳禁とする。

例：100m：スタート前に手を消毒→スタブロに触れる→ゴール後に手を消毒
砲丸投：投擲前に手を消毒→砲丸を投げる→1投投げる毎に手を消毒

⑩ 健康チェック・参加要件

- ・大会当日までのJAAF健康チェック表（陸協HP掲載）を本人、家庭の責任のもと作成し、本人が健康であることを確認した上で、未成年者は保護者に参加の承諾をもらう。症状がある場合は団体責任者に報告し、大会への参加は自粛する。当日朝、大会参加前の受付時に参加承諾書及び健康チェック表を回収する。

※競技に参加する選手だけでなく、マネージャーや競技に参加しない者についても、来場する際は健康チェック表を提出しなければならない。大会4日前から当日までの間に該当するに○がある場合は出場・観戦を自粛する。

- ・当日の検温欄に記載がない者は、当日備付の体温計を使って測定し、参加の可否を判断する。
- ・試合後も来場した関係者すべてが健康チェックを続け、症状が4日以上続いた場合には各団体責任者に連絡する。責任者は山梨陸協に連絡し、該当者の健康チェック表を回収・提出し、その後の指示を仰ぐ。

⑪ 競技運営について

- ・時間短縮のため、決勝のみレーン紹介を行う。フィールド種目もトップ8紹介は行わない。
- ・今大会の各種目表彰式は1位のみであるが、2位～8位には賞状を授与する。（場所はTIC）記録の発表は掲示板なしの方法で運営する。

⑫ 救急・救護体制について

- ・大会中、救護室に医療関係者が常駐する。
- ・医療関係者の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。
- ・近隣の医療機関と連携し、必要な場合はすぐに搬送できるようにする。

⑬ 報道関係・撮影等について

- ・報道関係者についても健康チェックシートの提出を義務付け、事後の健康チェックも継続する。4日以上症状が続く場合は山梨陸協に連絡する。
- ・各社の人数については事前に相談する。取材エリアを設定することもある。
- ・報道・各団体等において大会の撮影を希望する場合は、受付（TIC）において、申請書に記入し、撮影許可証（赤いIDカード）を受け取り常時携帯する。

⑭ 全国規模の大会の開催について

- ・公益財団法人日本スポーツ協会「国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本方針」（山梨陸上競技協会HP掲載）を参考に実施。

⑮ 本マニュアルは、日本スポーツ協会及び日本陸上競技連盟の示すガイドライン・ガイダンスをもとに作成されており、その更新の際には、内容を参考に本マニュアルの更新を行う。（山梨陸協HP掲載）

⑯ 大会開催時のチェックリストの提出

- ・競技会開催の基本情報と前提条件の確認のチェックリストを山梨陸協に提出。